日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2008 年 3 月 10 日採択

申請者氏名	**前原裕之 (会員番号 4187)**
連絡先住所	〒 607-8471 京都市山科区北花山大峰町
所属機関	京都大学花山天文台
職あるいは学年	研究員
任期 (再任昇格条件)	1 年 (再任 3 回限り)
渡航目的	研究集会での招待発表
講演・観測・研究題目	Photometric observations of a WZ Sge-type dwarf nova V455 Andromedae during the 2007 Superoutburst
渡航先 (期間)	タイ (2008 年 5 月 4 日〜5 月 9 日)

2008 年 5 月 5 日から 5 月 9 日までタイのプーケットで開催された The 8 th Pacific Rim Conference on Stellar Astrophysics (PRCSA2008) に参加し、口頭発表を行ないました。

" Pacific Rim Conference" とあるとおり、環太平洋地域からの出席者が多く全体でおよそ 100 名の出席者の比較的小規模な研究集会でしたが、1 つの会場で全参加者の前で講演が行なわれる、というスタイルでしたので、自分の発表するセッション以外の内容も聞くことができたので、よかったと思います (例えば M 型 dwarf の周りの惑星に生命は存在できるか？という発表もありました)。

私は初日の午後の"Novae and Supernovae"というセッションで"Photometric observations of a WZ Sge-type dwarf nova V455 Andromedae during the 2007 Superoutburst"というタイトルの口頭発表を行ないました (別に"Cataclysmic Variables and Variable Stars"というセッションもありましたが、なぜかこちらのセッションで発表になりました)。発表時間は招待講演と同じ 20 分間の時間をもらっていたのですが、準備している段階では 20 分以上かかっていたため、重要な結果や議論以外は省略等をして本番ではどうにか時間内に発表をすることができました。

講演では増光が稀で観測が難しい WZ Sge 型矮新星で、初めて増光の極めて初期 (極大の 18 時間前) からアウトバースト終了後までの長期間の連続観測を行ない、早期スーパーハンプが極大付近にならないと出現しないことや、アウトバーストが終った後も、スーパーハンプと同じ周期の変動が長期間観測されたことを中心に発表しました。反省点としては、やや内容が散慢になってしまったので、発表時間等の配分の点でももう少し議論する内容を絞ったほうがよかったかもしれません。

最後になりましたが、発表の機会を与えて下さった日本天文学会と早川基金の関係者の方々に心より感謝いたします。また、研究会でお世話になった LOC, SOC の方々に感謝いたします。